

記者会見概要

【日 時】 平成 23 年 3 月 14 日（月） 18：30～19：00

【場 所】 都道府県会館 3 階 知事会会議室

【出席者】 麻生全国知事会会長（福岡県知事）

（麻生全国知事会会長）

12 日に我々全国知事会は、今回の大地震に対し全国知事会緊急広域災害対策本部を設けました。ここでは、被災県がどういう物資なり人材を都道府県に対し求めているかということについて、被災県側から要請を受ける作業と、救援する方の県、これに対しては、要請に見合った供給体制をつくっていくということ、その 2 つの作業を始めました。そういう作業の中で、具体的にいくつかの品目については、今、知事会で調整をして被災県に送るという作業を始めています。

今後は、物資の救援に加えまして、人材の派遣ということが非常に大事になってきます。これにつきましては、国側と調整をしながら、知事会としてやるべきことについて、各県に連絡して必要な人材を確保し、派遣をするという作業に入っていきたいと思っています。

今日は、これを円滑に実行するために、東京事務所長会議を招集いたしました。その会議では、1 つは、知事会の動きと、それから各県の動きについて、できるだけ情報を共有するという体制をつくっていくというのが第 1 点です。

具体的には、各県から 2 名の方を派遣してもらうということで、2 名のうち、1 人はいろいろ調整をしてもらわないといけないということから、次長クラスをお願いしました。

それに加えまして、知事会（緊急広域災害対策本部）の作業が今後膨大になっていく可能性がありますから、1 番影響の小さい九州と中国地方の東京事務所から作業要員として 2 人派遣してもらうという話をしております。具体的な仕事については、明日事務総長のもとで調整をして方向を出していくという段取りでやります。

それから 3 番目に、今朝、総務大臣と連絡を取りました。その後、菅総理から電話がかかってきまして、とにかく総力をあげて救援をしなければいけないので、知事会としても是非このような活動をできるだけ積極的、効果的にやっていただきたいということを特にお願したいということをございました。それから、先程の会議で被災 4 県から、このような知事会全体としての動きに対して、非常に感謝をしているという旨の表明がありました。以上です。

<質疑応答>

(記者)

まだ、現実にはわからないと思うのですが、最終的にはどれだけの規模の人員派遣になる可能性があると考えているのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

一つの目安として、阪神・淡路のときは500人くらいなんです。そして、それが長期に続きまして、その後250人くらいにまで減りました。最終的には、土木や建築などの専門家が250人くらい残って、インフラ整備・復旧のお手伝いをしたと。それからいきますと、今回は、被災地域が広範囲にわたっていますから、人数としては、これを遙かに超える人材（応援）をしなければならないと思います。

(記者)

被災県及び国から、「こういう人材を」という具体的な要望はあるのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

被災県からは、物資の要請と人材の要請があります。

たとえば、人材については、保健師を早急に派遣して欲しいという連絡が我々にきていました。しかし、先ほど厚生労働省と連絡をとったのですが、これについては厚生労働省から各県に明確に「何人」という割り当てをして、派遣をしてもらいたいという要請をすでに始めている状況であります。

そうなりますと、二重になってはいけませんから、我々は、保健師の派遣の問題については、厚生労働省の活動に全部任せるといふことにしなければならないと。被災県は、県の方にも、国の方にも同時に（要請を）やっておりますから、それが重複した場合には、まず一義的には国において用意する体制があるかどうかというところを確認して、まずは国がやりますというところは、国に任せるといふ業務分担をしていきたいと思っています。

(記者)

被災県からの要請というのは、どういうのがきているのですか。

(麻生全国知事会会長)

(事務局に対し) どういうのがきているか。詳細に言って。

(調査第二部部長)

毛布とか、簡易トイレ、紙おむつあたりが中心です。その他、介護用の食料・用品とか水。それから・・・

(麻生全国知事会会長)

乾電池が足りなくて困っています。

(調査第二部部長)

乾電池です。それから、水用のポリタンク、紙のお椀とかでございます。

(記者)

実際に送るのはいつですか。

(調査第二部部長)

順次調整しております、送ったものもありますし。物資を拠出する県と調整した上で逐次対応します。

(記者)

具体的に、どの県からどのようなものが、とかは？

(調査第二部部長)

それは、まだ、調整中にして・・・。

(麻生全国知事会会長)

それは、頭を悩ませているところで、「これだけ欲しい」と言うのと、我々が「これだけ送れそうです」と言うのに、結構「差」があります。足りない分をどうやって送るかとなると結構難しい問題でして、実際に（物資を）送る活動は、若干時間差が出てくることになると思います。

被災県から要望を出してもらうのが出発点です。そして、供給県の方でどれだけ出せるかというのを調整して、被災県と連絡して救援を行うということになります。

(記者)

支援県というのは、被災4県以外の全ての県ということでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

そう、全てです。

(記者)

現状としては、要望が多すぎて、足りない、マッチングしないといところもあるので

しょうか。

(麻生全国知事会会長)

ありえます。非常に頭が痛いところです。調整の段階ですが、準備のできたところから実際に救援活動に入っていきますが、先ほど言いましたように、希望する量に達しないという場合、どうやって埋めていくかが、今後、非常に重要な調整となります。

(記者)

要望として多いものはどういう品目があるのでしょうか。

(調査第二部部長)

毛布、簡易トイレ、おむつあたりがかなり要望としては多いです。

(記者)

今回は県同士ということだが、実際には、市町村に対して、職員を派遣したり物資を出したり、ということはありませんか。

(麻生全国知事会会長)

それは非常に重要な点です。まず支援する側は今後県が人材派遣をしようとしてはしますが、市町村からの派遣でないとうまくいかないということが大いに考えられます。それを考えますと、支援する側の県の中で市町村との協力体制をつくっていくことは不可欠になってきます。これは我々が指示をしなくても的確に各県は市町村との協力関係をつくって実行するということになると思います。

被災県側ですが、非常に難しい事態になっている市や町があります。現実的に行政機能を完全に喪失している状態になって、町が存在しなくなっているところもあります。職員もずいぶん行方不明になっています。これをどうするかは大問題です。まずは県が必要な職員を派遣して町の行政機能の回復に早急に取り組む必要があるのですが、なかなかそうならないのが現実であります。この部分について各県の一般的な行政活動をできる人材が不足しているということですから、そこをどうやって補完するのかということについて、我々は総務省と調整をしている段階にあります。

(記者)

そうすると県の職員を直接市町村の職員に送るということも考えられるということですか。

(麻生全国知事会会長)

大いにあり得ると思います。各県から出していくということが一番基本ですが、それだけでは人材が足りないという場合には、各県の市町村からきた職員を加えて派遣していくことは十分考えなくてはいけないと思います。

(記者)

明日、九州・中国からくるのが第一陣ですか。

(麻生全国知事会会長)

第一陣です。これはわたしの考えですが、一番影響を受けていないのが西の方ですからお願いしました。これは全国知事会(緊急広域災害対策本部)のマッチングする作業のための要員です。だんだん量的に増えていきますので、本格的に一般行政職員を出すというのはまだもう少し時間がかかります。人材もいろいろあります。今日出ていったのは保健師です。これまでは医師が中心で、今後はいろんな職種の専門職が不足しますので、そこを出していくことになります。

それから、行政機能が壊滅しているところの回復には、被災県の県庁職員だけでは足りないという可能性は高いですから、そのような能力を補う意味で一般職員の派遣ということも考えていかななくてはと思っています。

(記者)

今回の地震に関して全国知事会だからこそできること、応援についての意気込みをお願いします。

(麻生全国知事会会長)

未曾有の大地震です。被害を受けた地域が非常に広範囲。被害の程度も深く大きい。国、国民あげて救援し、そして見事に復興し活力ある日本をつくっていかなくてはならないと思っています。その決意をもって知事会も活動します。国民の皆さんもやっていただきたいと思います。特に政治は政争ばかりではなくこの事態に協力し真正面から対処してほしいと思います。

(記者)

政府の対応についてどう考えますか。

(麻生全国知事会会長)

精一杯やっていると言わなくてはいけないと思います。いまの段階で政府の対応は不十分とかいう暇があったら、もっと前向きのことをいった方がいいと思います。

(記者)

阪神淡路の500人を超えるという話もあったが、実際にどのくらいになるのか考えはありますか。

(麻生全国知事会会長)

何人になるかはわかりません。ただし、一つの目安としては阪神淡路の経験です。今回はあの時をもっと強化・拡大した形でやらなくてはいけないと思います。

(記者)

知事会として何人送りたいとか設定があるのでしょうか

(麻生全国知事会会長)

それはない。需要サイドがどこの分野について必要とするかをよく見ながらやっけていかななくてはいけないので、こちらから想定してやっけていくというのは適切ではありません。実際に何が求められているかということをよく見ながら、それに応えられるようにしていきます。

(記者)

今のところ、どういう人材が被災地から求められているのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

保健師、臨床心理士のように心のケアをする方が重要です。学校の先生など心のケアを中心に行うことが大事になっていきます。専門職としては、水道とか道路、港湾などの早期復興に取りかからなくてはいけないので、それをやれる専門集団というのは非常に重要になってきます。後どういう方がありますか。

(調査第二部部長)

だいたいそんな感じだと思います。

(記者)

全国知事会の災害対策特別委員会では、こういう事態を想定して、各県の職員の人たちを導入して、すぐに応援できるような態勢作りの検討に丁度入ったところだと思うのですが、その態勢が整う前にこのような事態が起きてしまった。この議論の出発点は、新潟の泉田知事が中越の時に、経験のある兵庫県の職員を派遣していただいて、その経験により対応に当たったことが起きたということであったが、今回その件に従って、兵庫県とか新潟県の職員を先行して現地に行っていていただくというお考えはあるのでしょうか

うか。

(麻生全国知事会会長)

ないです。その程度では間に合いません。兵庫県、新潟県にまず重点的に人材を求め、人材規模が小さい。それから新潟県ではその後地震が起こっています。支援県でありながら被災県の要素を持っています。

(記者)

そういう仕組み作りを始めていますが、それを急ぐというお考えはありますか。

(麻生全国知事会会長)

ありません。現実に対応しなければいけないので、仕組み作りからでは間に合いません。

(記者)

昨日、片山大臣が被災地を視察して、宮城県知事に会われ、その時に身元確認の人手が足りないという要望を受けたということで、片山大臣はそのことを各県に頼みたいというお話があったが、今朝、大臣とお話をしてそういう要請があったのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

今の質問はたいへん微妙な質問です。身元確認という中身が何なのか。これは現地で一番頭を痛めているのではないのでしょうか。どうしますかね、私もちょっと知恵がありません。片山大臣との話で、そのような具体的な話は出ませんでした。ただ、人材が不足しているので、そこを積極的に応援するというので、知事会としては、物資的な応援はもちろんのこと、やってくださいと強く希望されていました。

(記者)

阪神淡路の時に比べ、派遣期間も長期にわたりそうでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

それは、分かりません。職種とか仕事の実態とかいうことによって違ってくると思います。あの時も一人の職員が非常に長くいることは避け、交替制をとりました。一人何カ月出すとかは職種によって違ってきます。例えば医師のグループは一週間で交替するというのを想定してやっています。

(記者)

市町村に派遣するということですが、かつて知事会としてこのようなことはあったのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

知事会としてはありません。そういう実態があったことは間違いありません。市町村へ県の職員を応援に出すことはあったと思います。知事会としては今回が初めてと思います。

(記者)

知事会としては、県のほうに派遣されるのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

いきなり市町村に出そうにも、そもそも市町村が存在しないような事態になっています。どのように振り分けるかは、それぞれの県庁で考えていただきます。

(記者)

これだけ被害が大きかったというで、与野党で統一地方選全体を延期してはどうかということを検討されているようですが、その点についてどのようにお考えでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

それは当然ではないでしょうか。4月10日に投票しようにも、町が崩壊状態になっている皆さんに投票に行ってくれといっても無理ではないでしょうか。

(記者)

被災県だけではなく、全国で統一地方選を延ばすという議論のようですが。

(麻生全国知事会会長)

それは必要ないのではないのでしょうか。他の地域は通常の活動が行われているので、そこをあえて延ばすという理由にはなりません。現実、検討されているのは、被災して投票に行けない、選挙活動もできないという状態のところを考えているのではないかと私は理解しております。全国一斉に延ばすということを検討しているとは私は理解していません。

以上